

筆山

第53号 / 2012年12月

土佐中・高等学校同窓会 関東支部会報

編集人 / 永森 裕子 (44回) 関東支部ホームページ : <http://www.tosako-kanto.org/>
発行人 / 関東支部幹事長 市川 直介 (53回)



はちきん会より

支えること、支えられること

今年の夏、「はちきん会」にお招きいただいて、
久々に同窓の皆様にお目にかかることができ、懐か
しく、また、うれしかった。

3年前の夏、全く身に覚えのないことで逮捕・起
訴され裁判を闘うことになった。事実とは全く違う
ことが報道され、裁判の行方も分からない中、同郷
の方々からの応援は本当にありがたかった。多くの
人が自分を信じてくれることが、一番の励みになっ
た。皆様に改めて御礼を申し上げます。

二度と味わいたくない経験ではあったが、得たも
のも大きかった。とりわけ、人間だれでも、ある日
突然、周りに支えてもらわなければならない状況に
なることがある、そんな当たり前のことを身をもっ
て知ったことはとても良い経験だった。

仕事の方では、この9月から厚生労働省に戻り社
会・援護局長を務めることになった。いろいろな任
事を抱えているが生活保護が最も注目される分野だ
ろう。この分野を担当してみても気になること
がある。生活保護を受けている人たちが「さぼって
いる人たち」「怠けている人たち」というイメージ
で語られることが多いのだ。そういう人が皆無だ
とは言わない。しかし、多くは、不幸にもいくつか
の困難が重なって生活保護を受けるに至るのだ。経
済情勢が厳しいこともあってか、他者の災難に対す
る感度が弱まり、世の中が不寛容になっていること
を危惧している。日本には「お互いさま」というよ
い言葉がある。厳しい時代だからこそ、支え、支え
られる関係を大切にしたい。〔49回 村木 厚子〕

関東支部事務局からのお知らせ

二宮 潔 (49回)

本部だより

千頭 裕 (58回)

①学生・若手社会人交流会 『学生・若手社会人交流会 in 2012』が12月15日(土) 14:00~18:00、東京大学駒場キャンパス生協食堂2階ダイニング銀杏で開催されます。

(参加費：学生 1,000円、社会人 3,000円)

関東支部HP (<http://www.tosako-kanto.org>) から、もしくはメール (tosawakate@yahoo.co.jp) にてお申し込みください。

②筆山会新年会 『筆山会の新年会』が1月12日(土) 12:00~、代々木倶楽部(渋谷区代々木3丁目59番9号 元・新日鐵山谷寮)で開催されます。

③学年幹事会

『2013年学年幹事会』が2月16日(土) 14:30~、東海大学校友会館(霞が関ビル35階)で開催されます。

④関東支部総会2013

『関東支部総会2013』が6月1日(土) 15:00~、東海大学校友会館(霞が関ビル35階)で開催されます。

②・③・④について、詳しくは関東支部HPでご確認ください。
<http://www.tosako-kanto.org/>

関東支部の皆さん、こんにちは。本部会計担当を拝命いたしております。58回生の千頭裕と申します。新校舎建築募金委員会の事務局も仰せつかっていることもあり、募金の際には、大変皆さま方にはご協力をいただき本当にありがとうございます。

「龍馬伝」で、おりの役と

して出演されていた真木よう子さんが出ているドラマ「遅咲きのひまわり」では、「なんちゃって土佐弁」でも関東地区に在住の皆様には懐かしく耳にされているのでは...と思います。
第1回目の放送後、高知県HPへのアクセスは2万件を超えるなど影響力の凄さを感じております。この機会に西部だ

母校だより

学校長 山本 芳夫 (40回生)

関東支部の皆様におかれは益々ご清祥のことお慶び申し上げます。また平素は母校に対し格別のご厚情とご支援を賜り心から感謝申し上げます。

○目標達成に向けての挑戦

九月の薄曇りの絶好のコンディションに恵まれた秋分の日、高三生が創意を凝らし制作した櫓が立ち並び、今や風物詩となった恒例の「第六十四回運動会」が多くの来場者を迎え盛大に開催されました。そして、この日を境に高三生は、捲土重来を期す過卒生とともにいよいよ大学受験に向け最終段階に入っております。センター試験は来年一月十九日、二十日の予定で行われます。全員の満願成就を心から願うところであります。

○主な学校行事について

十月は地震津波にたいする防災訓練を行いました。今年も近隣住民の方、潮江小の生徒の皆さんが参加し総勢約二千名が真剣に取り組みました。本校生徒は、訓練終了後には高知大学の岡村真特任教授の講演「南海地震に備えるー潮江地区の減災を考える」を聴講し、日常の防災意識の重要性を再確認致しました。

この後、十一月は高一生の修学旅行(東京・京都)、年明けて、一月は高校卒業式、二月は向陽祭(隔年開催)や中二生のスキー研修(新潟越後湯沢)、三月は中学卒業式と大きな学校行事が続きます。

○修学旅行でお世話になります(なりました)
高一生の修学旅行(前述)が十一月十九日から二十三日の予定(東京の日程は前半三泊)の予定で行われます。関東一円でのコース別研修に備えて、各班とも事前学習に熱心に取り組み、期待を膨らませております。訪問先の同窓生の皆様にはお世話になります。どうか宜しくお願いします。尚、

この「筆山」をご覧になる時には既に訪問が終わっているかとも思います。どうも有難うございました。

○新たな寄付制度の検討について

新校舎建築募金運動が一段落しその余韻も冷めやらぬところでありますが、次の取り組みとして、新しい寄付制度の創設を検討しております。その主旨は、土佐校が誇るべき校風である「文武両道」の更なる発展を担保する、具体的には、教育施設・設備や教育研究制度など、或いは部活動やその関連する遠征費用などへの支援などの充実強化のための財政基盤を図ることにあります。期間を定めたい会員制度を想定しており、同窓生のみならず、対象を広げたいと考えております。今後更に検討を進め、内容が固まりましたら改めてご報告をさせていただきますので、その節はどうかご支援をよろしくお願い申し上げます。

向寒のみぎり、皆さまのご自愛のほど心からお祈り申し上げます。近況報告とさせていただきます。

けでなく、東部の室戸岬のジオパークにもご家族や友人の方をお誘いいただいて、美味しいものを食べたり、地場のものをご購入いただいたり、地産外商が広まっていたらいいなあと思っております。

さて、同窓会本部も学校や振興会と協力して、新たな事業への取り組みも検討をしているところです。

関東支部の「学生・若手社会人の会」を参考にさせていただきながら、高知独自に「土佐ジョニアップしていく」「土佐高等学校先輩・後輩交流会」も軌道に乗って始めました。また会員の皆さんの最新情報を名簿管理のデータに取り組みんでいく工夫や努力もしております。

◇ ◇ ◇

2013ホームカミングデーは、8月17日(土)開催を予定しております。 来年早々には、「3の会」(末尾が3の回生)実行委員会を組織して、企画していきます。ノンフィクション作家の**門田隆将さん(53回生)**を講師にお迎えし、**筆山ホール講演会**を実施するようにしており、7月上旬には、ご案内を発送する予定です。是非ご参加くださいますようお願いいたします。

北海道支部だより 山本隆昭 (53回)

北海道支部の近況ですが、今年の支部総会は、11月3日に予定しています。もう少し早い時期にとは思っていますが、事情により、例年この時期になっています(北海道の秋を知るには良い時期ですが)。来年は役員改選の年に当たりますので、今年の総会で次期役員について諮る予定です。

その他の活動としては各支部会誌への支部便りの寄稿と総会出席となります。



広島支部だより 門田佳代 (49回)

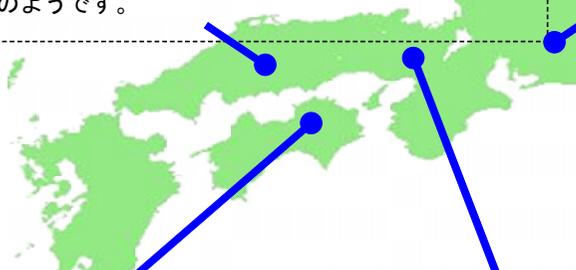
今年も宮島の紅葉の美しい季節がやってきました。広島支部は来る11月17日の総会に向け、1名でも参加者を増やすため、再度のお誘いをかけている最中です。

今年の講演は沖田支部長同期、41回生佐竹真一氏にお願いました。そのご縁で、他支部からも41回生が参加してくださいませ。昨年は講師の傍士銚太氏を中心に49回生が各地から集結し、懇親会を圧倒しましたが、今年はどうやら41回生のようです。

東海支部だより 山崎博司 (44回)

関東支部の皆様、こんにちは。この筆山が発行される頃、東海支部では冬期懇親会を開催する時節となります。当支部の主な年間行事として、総会(5月頃)と冬期懇親会(12月頃)を開催していますが、参加者は20~30名程度の少人数ながら和気藹藹で歓談しています。

ところで、毎年8月下旬に名古屋市中心部等で開催されている“愛知県版よさこい祭り”「にっぽんど真ん中祭り」(略称「どまつり」)は、北海道の「YOSAKOIソーラン祭り」に参加した学生が中心となって1999年に始まりましたが、第14回の本年は参加213チーム約23,000人、観客約200万人の規模にまで成長し、名古屋の夏祭りとして定着してきています。関東支部の皆様、機会がありましたら東海地方にも是非お越しください。



香川支部だより 野村喜久 (54回)

香川支部の近況をご報告させていただきます。今年の香川支部の「七夕総会」は、7月7日に「高松シンポルタワー」で開催。山本学校長はじめ44名の同窓生が年に一度の再会を楽しみました。関東支部からも幸徳会計監査が遠路ご参加下さり、誠にありがとうございます。

さて、うどん県へ改名宣言した香川県ですが、今瀬戸内の島々で「アート」が静かなブームとなっています。来年3月には、瀬戸内海の島々を舞台に、現代アートの祭典である瀬戸内国際芸術祭が開催されます。こころ動くアート県、讃岐香川へぜひ一度お越しください。

関西支部だより 春名悟志 (82回)

「関西支部総会に初めて参加しました」全国にある同窓会支部、多方面で活躍されている先輩方、文武両道の理念、これら全部がそろっているのは全国探しても間違いなく土佐高校だけです。

この恵まれたコミュニティーを生かさない手はない!!これが私の同窓会に参加した感想です。特に若い世代の卒業生には母校を盛り上げ、自分の視野を広げる意味でも集まりに積極的に参加して欲しいです。きっと今以上に母校が好きになると思います。そして改めて土佐高校ってすごいなと感じるはずですよ。

蓼科高原涼風の旅

第16回土佐ハイクの会

吉本恵子(37回生)

2012年9月8日(土)
7時30分新宿集合、時間厳守のこと、なのに5分遅刻、申し訳なく最後にバスに乗ると後部ラウンジでは早くもビールで酒盛り開始。

我々は4年ぶり、3回目の参加。前回参加の谷川岳の時赤ちゃんだった70回生岡野さんの坊やももう4歳。さすがママは元山岳部だけあって6歳のお兄ちゃんと共に2日間とも山登り組。

今回は二人の坊やを入れて30名参加。広島から参加の伊藤真紀子さんは前泊、後泊で外国旅行よりも高くつくとか。参加に感謝!

中央高速をしばらく走ると道の両側に葛の花が一面に咲き、早速俳句をひねる声があちこち俳句の先生中山世一氏より季語についての指導有り。

新宿でバスに乗るとき雨がポツリ、まもなく大降りになったが目的地が近づくにつれ徐々にあがり、諏訪南で高速をおりる頃にはすっかり道も乾いて上等

の天気。両側に黄金の稲穂と白い蕎麦の花畑が続くなか入笠山麓駅到着。
弁当を持ってゴンドラに乗る。ゴンドラの下の急な狭い道をマウンテンバイクが可成りなスピードで何台も下っていくのを見る。あんな危険なことが出来るのも



↑入笠山入り口で全員。登山組と散歩組に分かれます。

ら一匹の子犬ヌキ現れなごむ。その後、入笠山登山組と、のんびり散歩組に分かれた。
散歩組は湿原の上の山小屋、紅葉軒でコーヒータム。高原の何とも言えず清々しい空気の中で味わうコーヒーは格別美味しかった。すぐ側に黄釣舟草を

見つけて感激。

湿原は広く日頃茶席の山野草として切り花で親しんでいた草花が群生し自然の中から次々と現れる。

今を盛りと咲いている秋の麒麟草、松虫草、吾亦紅、梅鉢草、野あざみ、薄雪草、曙草、花イカリ、小鬼百合、アサマフウロ、山鳥兜、エソ竜胆、野紺菊、晒菜升麻、オケラ、桔梗、節黒仙翁、女郎花、男郎花

若者ゆえと感心。後で乗っていた人たちを見ると結構中年の人

も居るので驚く。

山頂から湿原の中を花畑の花を愛でながらしばらく散策。

弁当を食べていると湿原の中か

山登り組と共にまたゴンドラで下山。三八の高田谷氏(通称タコ)はハイクの会16年目で初めて登山組に参加とか。山頂

等に眼を奪われ心も奪われて瞬く間に時が過ぎてしまった。

での写真も初めて。1955
が入笠山初登頂!

バスで白樺湖畔の宿へ。

国民宿舎白樺荘水源荘は古くて地震があるとちょっと怖いかなと思っただ、少人数のスタックで心のこもった料理でもてなしてくれて大満足。

お風呂の後は宴会場へ。今回幹事長の前田氏の挨拶。三宅氏の東京での友人、今は長野・佐



↑梅鉢草の花

えると皆元氣。夫婦連れ仲が良いのか怖いのか。(翌日の川柳より)
最後は高校三年生の大合唱でお開きになる。
いつも元氣印で可愛い人、橋田夫人が超多忙で疲れ、肩こりがひどくて気分が悪いと聞き宿の女将さんが寝る前に部屋で15分ほど丁寧にマッサージをしてくれたとか。おかげで二日目は元氣を取り戻し、蓼科山登山組に復活。女将さんありがとう!

朝6時食事、7時出発。蓼科山7台目までバスで。登山組は15人十男の子2人で7時40分頃出発。
残り13人はまたバスで車山へ。リフト2本乗り継いで車山山頂へ向かう。360度の展望が開けた山頂、八ヶ岳や蓼科山は雲がかかっていたが、丁度蓼科山頂の雲が流れ全貌現れる。登山組は今9合目位かな?と皆で思いを馳せる。

バスの待つ車山肩までの下り道は石ころゴロゴロ。でも両側は野の花が咲き乱れ、つい見とれて歩くと足下をすくわれて捨りそう。後ろをゆっくりと永森さんとしんがりサポーターの岡田氏が降りていたので、花を愛で、写真を撮り、蝶と戯れ涼しい初秋の高原を堪能する。案内

書には30分とあった道を一時間かけて降りる。車山肩からバスに乗り、途中テレビ番組「サマーレスキュー」のロケ地を望みながら霧ヶ峰高原へ。

霧ヶ峰は日本初のクライダー専用離着陸場とか。遊歩道の脇には野の花・秋の麒麟草、山らっきょう、松虫草等が乱れ咲き、その先には芒の原が広がり、そのまた先はクライダーが何機も並んでいる。ウィンチで引つ張られたクライダーが上空高く上

第十六回 ハイクの会 俳句・川柳優秀賞

■俳句の部

〈天〉 蓼科やすすきの先に昼の月 濱田 継夫 (37回)

〈地〉 すすき原にのりの湯まであと二里 中島 宏 (38回)

〈人〉 つたもみじふる里にいる母想う 吉本 恵子 (37回)

■川柳の部

〈天〉 土佐ハイクやがて皆で徘徊だ 三宅 ヨシロウ (38回)

〈地〉 マドンナと云われたとたんシワ隠す 吉本 恵子 (37回)

〈人〉 風呂上がりいいいちこ抱いたようたんぼ 金沢 由里 (55回)

〈特別賞〉 ぼくたちは楽しかったからまた来たい 岡野 顕法 (4歳)

がるとロープが落下傘で落ちてきて、クライダーは優美に飛んでゆく。しばし見とれた後、少し登って「霧の鐘」の側でめいめい弁当を広げたり、鐘を鳴らして楽しんだりした。

登山組との待ち合わせ時間より大分早く七合目に迎えに行つたが、登山組トップのピンクのウエアーの中村さんが降りてきて、丁度間に合う。中村さん、「葉だったよ、全然きつていこと無かった」とのお話し。ところ

が、その後続々と降りてきた皆口々に「しんど、頂上の所の岩場がすごくてしがみついて上がった、下りるときは滑り降りる様だった」と全然違う感想。

これは日頃の鍛え方が違うのか、覚悟の差か。とにかく私の上れるような山ではなかったことは確かかなようだ。前日の入笠山では元気に登頂した英くん頭くんも登りは元気に登ったが帰りは疲れて何人かでリレーをした模様。登頂トップは濱田氏。さすが。

橋田夫人の登山靴はつま先がパツクリと口を開け荷造り用のヒモで結わえて何とか下山。前夜学生時代を熱唱した二八三人娘たちも無事元気に下山。バスで諏訪湖畔の片倉館(温泉)へ。由緒ある建物で重文財

とか。ゆつくりと温泉に入り2階の休憩所で一休みしてビール等飲んだ後バスに戻り、一路東京へ。小淵沢を過ぎたあたりで「富士山だ」と子供たちのはいしゃいだ声で外を見ると、くつきりと富士の雄姿。車窓から八ヶ岳、南アルプス等も眺めながらついに懸案の俳句作りとなる。

季語の要らない川柳二句、俳句二句。そして俳句の師中山氏からもう一つ「芒」の句をお題を出され、皆四苦八苦。

そしてついに選が終わり発表。俳句はどの句も皆美しく、川柳は実感のこもった一ひねりした笑いを誘われる句が多かった。

最後に、今回幹事の前田憲一氏、いつも会を盛り上げて下さる中島宏氏、毎回幹事補佐でキメ細かく準備して下さる橋田夫妻、俳句の賞品にすぎない作品を多数作って下さる井上健郎氏、俳句の指導、選にあたり、番外特別賞等準備下さる中山世一氏、色々な知恵と金一封を下さった永野先輩本当に有り難うございました。

登山組からのレポート

濱田継夫 (37回生)

蓼科山(たてしなやま)は八ヶ岳連峰の北端に位置する標高2530m級の火山で、円錐形の美しい山容から諏訪富士とも呼ばれる。今回の山行はこの蓼科山。子供二人を含む17人(男)濱田、馬田、羽方、西内、中島、沢村、橋田、(女)中村、橋田、伊藤、相良、神宮、岩橋、金沢、岡野親子が参加した。

七合目登山口↓馬返し↓天狗の露地↓将軍平(蓼科山荘)↓蓼科山頂上まで健脚であれば二時間といわれるルートである。

しかし、蓼科山の登山道は麓から眺めるやさしい姿からは想像出来ない程の急登だ、と言われ、出発を前にすでに何人かが弱気になる。常連の岡田、井上、三宅も散策組に回る。副幹事までもが、途中でちゃがまってしまいかもしれんきに、その場合は山小屋で待ちよります、なんてことを言い煙幕を張る。前日の深酒がやる気を萎えさせたのかも知れない。

七合目の鳥居を抜け、苔むした針葉樹林帯の原生林の中を緩やかに登って行く。間もなくゴロゴロの岩を道に敷いた登りに入る。切った材木がそのまま止めに使われている。雨が降ったら流れおちる水とともに岩も流れるので、苦肉の策で生木を地面に埋め込み、打ちつけてあるのである。傾斜が急になるにつれて、休みが多く入る。最初は30分後、二回目は15分後、それからほっと短く。このことからその勾配の険しさがわかるであろう。

馬返しと呼ばれる地点からは、さらに傾斜が強まる。やがて天狗の露地とかかれた小さな標識が見え、2〜3分行けば展望台があるというが、わき道にそられて風景を楽しむ余裕はなし。しかし後方に浅間山系が見え、女神湖も見えてくる。我慢を重



蓼科山山頂にて

ねてもうひと登りすると、やつと將軍平に建つ蓼科山荘に着く。ここで長時間の休憩タイム。蓼科山の頂上はもう目前だが、蓼科山荘からはさらに胸を付く急坂となる。200mを直登、岩伝いの急斜面、ここで完全に皆がへばった。ましてや子供連れ。もはや道とは言えない岩のころころした斜面に取り付き、息を整えつつ一歩一歩と登って行く。修学旅行なのか、女子高生が嬌声をあげながら登ってくる。そういえば土佐高時代にも皆で梶が森に登った。時代は変われど、似たことをやっているようだ。鎖場なども所々にある。子供の足では次の一歩が届かない場所が多い。樹林が切れ、背

マラソンで有森裕子が、自分で自分をほめてやりたい、といったがまさにその気分。山頂での弁当

三角点に立つと雲海が広がり、赤岳の頂上がかすかに見える。目を転じると遠く浅間山系の山や四阿山、近くに美ヶ原、白樺湖・女神湖、佐久盆地が眼下にある。見下ろすと雲の間から前に登った北横岳のロープウェイの終点の建物も見えた。南斜面には縞枯れの木々が山の斜面に筆で絵を描いたように幾重にも走っていた。眺望絶佳とはまさにこのことである。

後の視界が開けてくると、蓼科山荘ヒュッテの建つ頂上の北端に達する。汗が全身から滲み出す、頭もシャワーを浴びたように濡れている。山頂部はかつては噴火口跡だろうか、直径100mほどの円形の中に岩石が累々と積み重なる溶岩丘になっている。大きな溶岩で覆われているため、樹林が育たず360度の展望がある。直径100m以上はあろうかという広さである。二時間、などとほとんどもない、最後尾が頂上に達するには三時間半近くを要した。

力が充実している。

白根山で昨年さんざん苦労したが、今年はいよいよきつかったねえ、と西内君、彼に限らず年を追うごとに体力も下降の一途である。しかし、来年も決行することは決まっているし、幹事も決まった。老年・熟年登山と言われようと元土佐高生の気

が一段とうまかった。同じ道を下るので、気分は軽くはなかったが、若々しくて(?)誇らしい青春時代の自分がいるのであった。二時に散策組のバスに合流ということ、十二時に下山開始子供たちの疲れも激しく、下山途中の岩場では一苦勞、お母さんと中島君たち複数で子供たちの両手を捕まえながら慎重に下山、元上智の山岳部の山ガールでお母さんの岡野さんは今年子供を連れて燕岳に登ったが、道は整備されていたので比較的登りやすかった、しかし蓼科山の道がこんなに大変だと知っていたら子供は連れてこなかった、と述懐。とてもよかった、しかし、もう二度目はありません、と神宮、相良、伊藤さんたち若手も含め女性群はあとのバスの中でコメントした。二時の予定時刻には、最後尾はたどり着けなかったが、全員無事下山。

暮の好きな人たち、覚えた人たちが、この指とまあ一れ!

仕事をやめて、またゆっくり暮を打ちたい人、この機会に暮を覚えた人へ:

一緒になって月1回集まり暮を打ち、また習い、そのあと食事をして懇親を深めませんか? このほど土佐高OB・OG囲碁同好会が発足することになりました。

まずは2013年1月にどこかで集まり、発足会を持つ予定です。同好会に参加また興味のある方は下記世話人に年内をめどにご連絡ください、お待ちしております。初心者・女性勿論歓迎です。

◆世話人一同◆

- 前田 憲一 (37回) 電話 080-3364-8885
- 大町 正人 (38回) 電話 080-5039-3355
- 高田谷 洋 (38回) 電話 080-6580-8359

母校/同窓会本部/各支部

- 土佐中学・高等学校 事務局 千頭裕 千780-8014 高知市塩屋崎町1-1-10 (TEL)088-833-4394 (FAX)088-833-7373 (E-mail)tosa@tosa.ed.jp (HP)http://www.tosa.ed.jp/index.html
- 土佐中学・高等学校 同窓会本部 会計幹事 千頭裕 千780-8014 高知市塩屋崎町1-1-10 (TEL)088-833-4394 (FAX)088-833-7373 (E-mail)tosa@tosa.ed.jp (HP)http://www.tosaobog.com/
- 北海道支部 事務局長 山本隆昭 千001-0018 札幌市北区北18条西6丁目 ARTE 88-305 (TEL)011-756-2817 (FAX)011-756-2817 (E-mail)yamat@den.hokudai.ac.jp
- 東海支部 事務局長 神宮美恵子 千468-0075 名古屋市中区御幸山1201 御幸山パークマンション B-301 (TEL)052-837-5834 (FAX)ナシ (E-mail)jjingu-m@crux.ocn.ne.jp (HP)http://tsakotokai.web.infoseek.co.jp/
- 関西支部 事務局長 原田和人 千662-0015 西宮市甲陽園本庄町6-67-205 原田方 (TEL)090-1073-7822 (FAX)ナシ (E-mail)harada73@hotmail.com (HP)http://www.tosa-ko.org/kansai/
- 広島支部 事務局長 大谷準一 千734-0007広島市南区皆実町6-3-26-902 (TEL)082-253-5759 (FAX)082-254-7523 (Email)spat5629@vesta.ocn.ne.jp (HP)http://www.geocities.jp/hiroshimashibu/
- 香川支部 事務局長 武山正人 (担当:大石浩) 千760-8573 高松市丸の内2番5号 四国電力(株) (TEL)050-8801-2720 (FAX)ナシ (E-mail)ooishi11737@yonden.co.jp
- 関東支部 事務局長 二宮潔 千100-8222千代田区丸の内2-6-1丸の内パークビルディング 森・濱田松本法律事務所 弁護士市川直介 気付 (TEL)03-5223-7719 (FAX)03-5223-7619 (E-mail)naosuke.ichikawa@mhmjapan.com

公美子と晶子のインタビュー

伝承・土佐人気質

宮地 貫一さん
(21回生)



■宮地さんの時代、土佐中学に
進学されたきっかけは
横浜市で、サラリーマンの四
人兄弟の次男に生まれ、帰高後、
土佐中学のお隣の潮江小学校に
通いました。呼び名は『貫ちゃ

ん』。ガキ大将で小学校を出た
ら遊べると思っていたが、高等
師範学校出の若くて向学心の高
い藤岡先生の影響もあり、土佐
中学予科を受験しました。予科
は学年十二人、担任は吉本要先
生【かます】。四年上の伴正一
さん(弁護士・外交官)は、一
番の秀才で尊敬する先輩の一人
です。

私学といっても、少数精鋭の
英才教育という創立者の基金
のおかげで、県立と同
等の学費で教育が受け
られました。今も21
回生で元気な濱田君、
岩谷君、傍土君らで毎
年クラス会を開いてい
ます。ニックネームは、
兎年生まれなので『ラ
ビット』または、『宮
貫(みやかん)』でした。

に英語を勉強して東京帝国大学
法学部に合格、再び上京しまし
た。当初は获徑に下宿、出版取
次店「栗田」でアルバイトもし
ました。本を乗せた自転車で神
保町から駿河台の坂を登るのは
大変でした。仕送りの学費を歌
舞伎につき込み、授業料滞納で
張り出されもしました(笑)。
近藤久寿治先輩(6回生)
や島内淳先輩(16回生)たち
とはよく酒を飲みました。土佐



↑東大時代 (左)

を育てる仕事が出来たことをよ
かったと思います。戦前の師範
学校制度のように現場の先生を
教育することが大事です。すべ
ての基本が教育ですよ。人間を
育てることは単なる労働とは違
いますからね。
大学局長時に現在十万人超が
利用する放送大学を作りました。
『誰でも何処でも教育のチャン
スがある』という意味では社会
的に意義のある仕事ができまし
た。

ますね。
■奥様のこと、お子様の教育の
ことお聞きします
家内は高知の出身でしたから
学生時代も東京から帰る度にデー
トしました。入省前の学生結婚
なんですよ。新婚時は大宮で八畳
一間に生活しました。亡くして
三年になります。
子供たちの教育は家内任せで
した。たまにお小遣いをやるこ
とぐらいでしたが、本を買うと
きは助成金を出していました。
助成課長ですから家でも実践で
す(笑)。本を与えるのではなく、書店に自分で行き、どこに
どんな本があるかを知ることが
大事です。息子は歴史物、娘は
探偵物が好きでした。購入した
本を通して子供の成長や個性を
知ることが出来ましたね。
帰りが遅いことが多く、家内
が寝ている家に入れるように、
酔っぱらっても力ギを失くさな
いようにベルトに紐で結んであ
るんです。今もほらね(笑)。

■戦中戦後の東京での学生生活

■文部省を選ばれた理由と文部
省でのお仕事について

■尊敬する政治家はどなたです
か

■インタビュー

はいかがでしたか
受験して陸軍經理
学校に合格。上京後、
二十四時間生活を共
にし強い絆で結ばれ
ていきましたが、在校
中に終戦を向かえま
した。昭和二〇年八
月十五日、一つの人
生が終わりました。
戦後の混乱の中、旧
制高知高校へ、さら

はいかがでしたか
受験して陸軍經理
学校に合格。上京後、
二十四時間生活を共
にし強い絆で結ばれ
ていきましたが、在校
中に終戦を向かえま
した。昭和二〇年八
月十五日、一つの人
生が終わりました。
戦後の混乱の中、旧
制高知高校へ、さら

校同窓会の起りですかね。家族
連れで集まったこともありまし
たよ。
東京帝国大学法学部を卒業し
て、共同通信社で外から日本を
見てみたいと思いましたが夢か
ならず、卒業後一年間東京帝国
大学の学士入学で法律を学びま
した。銀行や大蔵省に就職する
友人が多い中、同郷のS先輩の
紹介で文部省人事課長と面談し
て入省を決めました。今は、人

記憶の中から溢れ出るお話は、
ユーモアたっぷり。残念ながら
記事にはできないお酒の上での
エピソードも……。 (次号に続く)
インタビュー
中平公美子 (59回生)
宮崎 晶子 (67回生)

土佐中・高生徒の 東京遠征記

カーナよさこい支援会

カーナ高校生日本研修旅行の東京での交流行事に、土佐中・高生が参加するようになって7年目の今夏、上京生徒6名のうち4名は2〜4年連続のリピーターであった。何が彼ら彼女らを惹きつけるのか？生徒の感想文から引用してみた。

公文敏雄 (35 回生)

■想像を超える楽しさ

「よさこいを踊るのは初めてで難しく感じましたが、練習を積み重ねるにつれ自然とからだ動くようになったことには自分でも驚きました。本番では本当に楽しく踊ることが出来ました。カーナ人学生と土佐校生と



先輩を囲んで
はちきんの卵と仲間たち

の交流会では、事前に作って覚えていった英語での自己紹介を元氣よく言うことが出来ました。彼らがうなずいたりほほ笑んだりして、大いに反応してくれるのが嬉しかったです。終えた今思うことは、全体が想像以上に楽しかったということです。もちろん、僕は来年も行きたいと思っています」

(中一K君 初参加)

■素晴らしい仲間たち

「よさこいは、練習も本番も本当に疲れたが、すべてが終わった後、僕は大きな達成感を感じることができた。それに、みんなの笑顔がそれ以上にうれしかった。カーナの高校生も、日本の中高生も、みんながフレンドリーですぐに仲良くなれた。そんな素晴らしい仲間がいたから、うまく交流できたのだと思う」

(中三I君 初参加)

■異空間国際コースホテル

「カーナ大使館でのレセプションや東京の学生との交流、また打ち上げパーティーでのダンス



も、昨年とは違ってリラックスして楽しむことが出来ました。プログラムの最

→本場仕込み
華を添えます

後に予定されていたディスプレイランドに行く時間も惜しいような気さえしました。特に今年良かったと思ったのは、滞在したコースホテルです。ロビーと食堂に一台ずつあるテレビを見たい人が自然と集まってきます。カーナ人学生のグループ、東京



決まっているかしら？

を訪れた欧米諸国の旅行者、アジア諸国の人々など、いろいろな国の言葉が頭の上を飛び交いふと自分がどこにいるのか忘れてしまいそうな不思議な感覚でした」

(中三K君 2回目)

■達成感が大好き

「特に練習最終日は過酷だった。炎天下を遮る木陰の中の踊りでさえ、クラッとした。でも、その疲労感や流れ出る汗に、な

カーナ高校生のドラマ演奏が

んとも言えない達成感を感じるのだ。生まれて初めて外国人と会話らしい会話が成立したとき大きな喜びに満たされた。去年と比較してずいぶん上達した英語力に自分でも驚きを感じている。東京の中高生との交流も楽しかった。麻布学園には陽気で活発な人が多い。今年はさらに友達も増えた。高知に遊びに来る予定も立てているそうだ。どこに泊まるのかなあ。英語を鍛錬しておくなくては、と思う。

体力だって負けてはいられない。カーナ人学生の独特な運動方法（音楽のリズムに合わせて小刻みに腕立て伏せをする）に刺激を受けて、家に帰って来てから毎日百回の腕立て伏せを続行中である。次の夏の交流が待ち遠しい」

(中三下君 2回目)

■カーナ人と同室だった

「文化交流会では、男子は甚平、女子は浴衣姿で参加しました。東京芸大の卒業生で編成された本格的なバンドがステージに上がり、両国の伝統的な歌（日本側は『さくらさくら』『スキヤキ(上を向いて歩こう)』）に、互いの国のイメージを英語と日本語の歌詞をつけて歌ったり、ゲームで盛り上がり、楽しいひと時でした。ホテルでは、8人のカーナ人女子学生たちと同室だったためたくさん

交流し、下手でありながらも英語で話すことの楽しさを学ぶことが出来ました。ロッテ浦和工場の見学では、一日に4万枚製造されるという『CHANANA』チョコレートを始め、馴染みのあるお菓子が延々と効率よく機械の中で作られていく様に圧倒されました」

(高一Aさん 3回目)

■爽快な一体感

「今年は新しい振付が追加され、8人で輪を描くように踊るパートがありました。私は最前列にいて、民族楽器風の太鼓を叩くカーナ人学生たちと輪になって踊りましたが、その時に感じた一体感が本当に爽快で最高の気分になりました。5泊6日のプログラムでしたが、あっという間に終わってしまいました。本番はもちろん、交流をしながらの練習は充実しており、また楽しかったです」

(高一Mさん 4回目)

追記：8月17日来日のカーナ高校生一行20名は、交流先7校の生徒らと「ロッテ・カーナよさこい連」を結成、26日に原宿スーパーよさこいで熱演のち飯田市に移動、9月4日無事帰国しました。ご支援に厚くお礼申し上げます。なお、生徒たちの感想文原文の随所に感謝の言葉が綴られておりました。



↑安藤広重の比較的初期の浮世絵風景版画集『東都名所』より『永代橋深川新地』。天保二年（1831）頃に描かれた永代橋。右端の帆を下した大船をもやつてある所が佃島。対岸の深川洲崎の突端に見える高樓は深川七場所と呼ばれた岡場所の一つ「新地」である。江戸の海に白帆が浮かび、橋上を様々な職業の人が行き交って、爛熟期の江戸の繁盛を見せている。この頃は、深川の岡場所は吉原の「北里」に対し「辰巳」と称されて、江戸っ子の典型である辰巳芸者の全盛期であった。

隅田川に架かる橋は当初（江戸初期）は千住大橋だけであった。それから江戸の安定と発展に伴い、両国橋、新大橋、永代橋、吾妻橋の順に架橋されてゆく。千住大橋を除いて一般に「四橋」と呼ばれた。四橋とも大川の増水で流されたり老朽化したりして何度も架けかえられながら幕末に至っている。永代橋は元禄九年（1696年）五代將軍綱吉の五十の賀として初めて架せられた隅田川の最下流の橋である。

永代橋には歴史的に名高い事件があった。文化四年（1807年）八月の深川八幡祭の時、祭り見物の群集が橋の上が真つ黒になるくらいに参集して、その重みで永代橋が落橋し、実数で千五百人ほど溺死したと伝えられる大惨事が起きている。

〔41回 西岡恒憲〕



↑左図と同じ方向から撮影した現在の永代橋。右端の超高層マンションのある所が佃島



↑江戸三大祭りの一つ深川八幡祭の六十挺以上の戻り神輿が永代橋上を数時間かけて通過する

江戸百景（弐）

本年八月、江戸三大祭りの一つである深川八幡祭の三年に一度の本祭りが執り行われて、十二日（日）に六十挺以上に及ぶ各町神輿の連合渡御があった（本来は去年が本祭りであったのだが、東日本震災のため、神輿の連合渡御は中止された）。

連合渡御のハイライトは、戻り神輿が富岡八幡宮に向かって次々と永代橋を通過してゆく光景である。なぜか永代橋を渡る時、神輿は肩に担がずに指したまま渡らねばならないらしい。数時間かけて六十挺が渡ってゆく光景はなかなか圧巻である。

隅田川に架かる橋は当初（江戸初期）は千住大橋だけであった。それから江戸の安定と発展に伴い、両国橋、新大橋、永代橋、吾妻橋の順に架橋されてゆく。千住大橋を除いて一般に「四橋」と呼ばれた。四橋とも大川の増水で流されたり老朽化したりして何度も架けかえられながら幕末に至っている。永代橋は元禄九年（1696年）五代將軍綱吉の五十の賀として初めて架せられた隅田川の最下流の橋である。

永代橋には歴史的に名高い事件があった。文化四年（1807年）八月の深川八幡祭の時、祭り見物の群集が橋の上が真つ黒になるくらいに参集して、その重みで永代橋が落橋し、実数で千五百人ほど溺死したと伝えられる大惨事が起きている。

洋岳（ひろたか）は、2012年5月26日現地時間午後5時30分頃、タウラギリ一峰登頂に成功し、世界の八千峰十四座全山登頂者の仲間入りを果たした。世界で29番目。28番目までの中には女性や韓国人もいるが、日本人はいなかった。九座まで登った日本の代表的ヒマラヤニスト三氏も、悉く十座目を目前にして「十座の壁」に阻まれた。洋岳自身も、十座目のカッシャブルム二峰で雪崩に巻き込まれ、パートナー二名を失って一人奇跡的に救出され、再起を困難視された。洋岳は翌年再度挑戦、日本人として初めて「十座の壁」を破った経緯がある。95年、日本山岳会のマカール登頂の一員として参加して以来、十四座登頂まで足かけ18年を要した事になる。この間、登山に取組む姿勢の大きな変化の節目があった。一つは、01年にドイツ人クライマー「ラルフ」の主催するナンカパルパット国際公募隊に参加し、これが、「ラルフ」やオーストリア人女性クライマー「ガリンダ」をメインパートナーとして、基本はアルパインスタイルなどの速攻登山に移行する契機となった事

竹内洋岳のこと 野波博泰 (26回生) ～～岳父からの喜びの声

であり、今一つは05年にプロ宣言をし、石井スポーツと新たな契約を結び、店に出る事なく登山に専念する環境を作ってもらった事が大きい。洋岳の略歴は、71年生まれ。立正大学を出てIC工石井スポーツ入社。05年プロ契約。洋岳という名前は登山好きだった祖父がつけた本名である。

十四座目登頂成功の第一報が入った時、気の早い人は国民栄誉賞ものだと言ってくれたりもしたが、洋岳は賞といったものには驚く程テンタンとしている。八千峰全十四座登頂は、洋岳にとっては一つの区切りにならないであろう。プロクライマーである以上、よりリスキーな登山に挑戦し続ける事は宿命でもある。頂上を極めても、安全に下山してこそ成功したと言える事をこれからも常に忘れないでいてもらいたい。家庭の事は良妻賢母のひろ子に任せておけば良い。僕も及ばずながら支援していくつもりだ。

編集部注 前号筆山（52号）「誇らしき婚殿」で紹介したプロ登山家の竹内洋岳さんの「岳父」野波博泰さん（26回）からの喜びの声です。

竹内氏は、野波さんの次女ひろ子さんと結婚、就学前の二人のお子さん、盾（しゅん）君6歳と結（ゆづ）君4歳の良きパパでもあります。

第15回 はちきん会

2012年9月15日(土)

今回のハチキン会は、いつもと少し趣が違いました。一つは、会場。霞ヶ関のプレスセンタービルの10階にある展望レストラン「アラスカ」。日比谷公園を見下ろす開放感溢れる素敵な空間でした。隣の会場である「日本記者クラブの大会議室」では、当日、自民党の総裁選立候補者の記者会見が行われ、廊下やエレベーターには議員やSPの姿がちらほら…。めったに遭遇しない光景でした。そしてもう一つは、ハチキン会史上初の「講演会」の開催。土佐校OG村木厚子さんがご自身の体験談や現在のお仕事などについてじっくり語っていただきました。さて、来年は…？ 乞うご期待！

宮崎晶子 (67回生)



霞が関の景色を一望できるレストランで、おいしいお料理とワインをいただきながら、楽しい時間を過ごすことができました。ほとんどの方は初対面ですが、すぐに打ち解けて会話が弾みます。講演では村木さんが携わられた、障害者基本法と子育て支援関連法成立についても伺うことができ、大変勉強になり刺激的でした。ハチキン会は素晴らしい女子会です！次回も期待しています。(67回 遠藤瑞枝)

今回はじめて出席させていただき、時の人「村木厚子さん」のスピーチに感動すると同時に、各方面で活躍中の皆様の活発な質疑応答から、躍動する“ハチキンパワー”を垣間見させて頂きました。楽しい一刻を有り難うございました。(29回 山下忠佑)

4年ぶりに参加したハチキン会。村木さんのお話はウィットに富んで、非常に楽しかったです。また、広い分野で活躍する先輩方と出会い、刺激的でした。(83回 北村悠夏)

男が元気になる場所です。(41回 水野孝)

理不尽にも長く苛酷な日々を強いられたというのに、村木さんは本当にたおやかな女性でした。どこにあんな様な強さを秘められているのかと目を見はる思いがし、穏やかな佇まいの中に毅然とした姿勢を保っておられるご様子に深く感銘を受けた会でした。窓外に樹々の緑が眩しいばかりに広がる会場は、この日の集いにふさわしく、爽やかな空気に包まれた素晴らしい一日でした。(33回 宮田喜代恵)

第15回ハチキン会は、講師に村木厚子さん(49回生)を、ナイトに小松三男氏(41回生)を迎え開催致しました。100人を超える出席者も、皆ニコニコ。21回生から87回生まで、先輩後輩相集い和気あいあいと楽しく美味しく有意義な時間を過ごしました。ご参加、ご協力下さいました皆様に幹事一同心から感謝致します。(幹事 33回 佐々木泰子)

向陽新聞に見る土佐中高の歩み ⑥ —新校長のもと創立四十周年を迎える—(昭和34~35年)



昭和34年
~35年

空襲により校舎を失った学園の復興とその後の発展に寄与された大嶋校長逝去の後を受けて、昭和33年10月曾我部校長が就任した。スポーツと学問両立の土佐校の名声の陰で出てきた「ゆるみ」症状の改革に向けて、生徒はもちろん保護者先輩などから、大きな期待が持たれての新校長の登場であった。そして翌年には創立40周年を迎えた。また土佐校を取巻く環境変化の影響が出てきたものこの頃である。

向陽プレスクラブ

森田隆博(37回生)



向陽新聞第47号創立40周年記念号

創立40周年を迎え 改めて問われる創立の精神

向陽新聞は34年11月18日第47号創立40周年記念号を発行し「多彩な文化祭、記念行事今日幕開け」と記念祭を報じた。

18日から三日間生物部、物理部、新聞部など文化部の展示会や映画会、22日には40周年記念事業として建設した新グラウンドのお披露目を兼ねた野球部ハンドボール部の招待試合が開催された。19、20日には岡村弘氏(1回生)ら先輩四氏による講演会と音楽会と盛り沢山の行事が続けられた。

また向陽新聞の二面では全ページを割いて、近藤久寿治氏(6回生)など在京の先輩方による座談会「本校の伝統は失われたか、そして今後の進むべき道」を掲載した。創立40周年を迎えてあらためて「土佐中精神」

〈開校の精神〉の現在の復活をどうすべきか、新校長に何を期待するかの議論が行われた。

そこでは、官学排斥と自主独立を重んじた初代校長の作る

うとした伝統の理解にズレができてきたという批判に始まり、私学の優位さを生かした学校づくりとか、また時代や経営の要請から少数教育から多数教育と変わる際に創立時の精神を受け継いでいくように教育方法の転換を行わなかったなど、傾聴すべき意見が多く出ていた。

変革への新校長の 意欲的な取り組み

校長就任後四ヶ月後の向陽新聞44号で曾我部校長は抱負と方針を語る。「本校の在り方を今までの予備校的存在から人間形成の一過程と位置付け……」と。今まで聞けなかった歯切れのよい言葉から新校長の改革が始まった。

それまで生徒は始業式や卒業式などでの長時間の挨拶から校長の考えを聞くだけで、それも入試と学校の栄誉の訓戒ばかりであった。それに対して曾我部校長の挨拶は短時間であった。(44号)その代わり色々な機会をと

らまえて生徒への発信や対話をした。

「みんなの



当時の玄関(絵葉書)

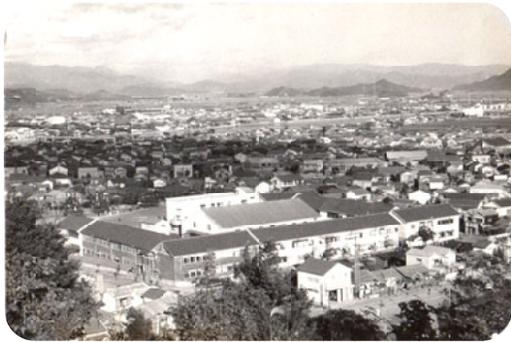
かけ橋にバドミントン、次は卓球セットを各クラスに校長がプレゼント。「校長から30冊図書(第44号)」「学者校長中心に放射能測定、物理部」(第45号)、「校長先生と生徒との懇談会」(第46号、第48号)などの記事のほか「ちよつと失礼」では曾我部校長が奥様と共に向陽新聞に登場した。(第44号)

また懇談会では生徒の意見に対して「提案が遅い」とか「生徒一般の関心が薄いのが本校の欠点」と生徒に苦言を呈する(第46号)一方で、生徒の提案を受け入れ、食堂の新設や売店の改造などに繋げている。(第48号)

人間形成での重要性からクラブ活動の活発化への取り組みも新校長の特色の一つ。クラブ活動で得られるものがあれば少しぐらい点数が下がってもよいと。またスポーツは楽しむものと言

い、学校宣伝に考える私立校の多い中で異質のものであった。向陽新聞第48号ではクラブ活動をこれで良いかという特集を組んだ。当時のクラブ活動在籍者数は文化部運動部あわせて生徒数の44%、特に文化部の男子が少ないとの結果。

これに対して曾我部校長は早速アクションをとった。勉強と



当時の母校全景
(第47号に掲載した写真)

クラブ活動の両立を生徒に訴えるとともに顧問の先生を校長の委嘱として指導者と助言者という顧問の使命を明確にした。
また文化部の不活発さにも色々手を打った。文化祭の見直しと存続の意見を支持し、その際28年から続いた予餞会を廃止し文化祭に吸収させたのも曾我部校長の発案であった。

曾我部校長は明るい学園づくりのためにホームルームの充実と活発化を呼びかけた。それも生徒の自主性を重んじ自由闊達な活動を期待して生徒の自主運営としたものである。

は学校がホームルームを直接指導することに方針を変更した。生徒の無気力さから活動は不活発となり、スポーツ・郊外散歩・自習や中止下校などに化けるケースが多く昔に逆戻りとなったためである。道徳教育を導入することとなり30時間余のホームルームのうち10時間を道徳教育に充てることになったことを契機として37年度から実施することとなった。(第53号)
曾我部校長の理想とする明るい学園・学級づくりへの障害となつたのは、自覚と意欲のない無気力な生徒であった。
環境の変化と共学のピンチ
入試の受験者数は年々減少し、33年には中学で前年比約二割減、高校で約三割の減であった。中学受験者の減少は出生数の減による一時的なものであるが、高校受験者の減少は県下教育界の変化によるものであった。(第41号)。
戦後、県下の公立学校では動評闘争など混乱の時期が続いたが、その混乱も落ち着いてきた。加えて25年から始まった公立高校での全員入学制も廃止となった。公立高校の混乱と全員入学制に依存した私学優位(?)という特殊事情もなくなった。
ライバルである同じ私立高校でも新設の学芸高校(32年新

設)が新鮮な感覚で人気を集めていた。「私立はもう土佐のみではない」と向陽新聞第43号が喚起を求めた土佐高を取り巻く環境の変化であり、土佐校の特色や個性ある教育が問われる時代の始まりであった。
受験者減少の現象は続き特に女子受験者の減により34年の中学女子入学者は264名中33名と、例年の半分で22年共学開始以来最低人数となった。共学維持の配慮をしないで男女の競争率を同一にして合格者を選抜すると、女子の受験者の減少は女子の入学者の減少となるわけである。
向陽新聞は「男女共学の危機、共学制はどうなる」と問題提起



第46号 男女共学のピンチを伝える

した。学校側は「女子に対する特別の教育をしていない、本校への女子の志願者の減少はやむを得ない。これにより共学廃止もありうる」との見方であった。向陽新聞は共学の価値について改めて見直し、共学存続への積極的な注力を求めた。(第45号)そして翌35年はクラス12人まで減少した。
学生運動の流れが高知にも
35年は安保闘争の年で、学

生運動のうねりが全国に広まった。その流れは遠く高知の高校生にもおよんだ。
向陽新聞は土佐高生の政治意識についてアンケートを行った。政治への関心は80%の生徒が必要と答え、また安保改定の内容を88%の生徒が知っていると答えた。遠く離れた土佐高生にも政治への高い関心が伺えた。また高校生の授業放棄や政治活動には不賛成と答え、健全な高校生の回答であった。(第49号)
そんな時、土佐高生徒会がとんでもない事件に巻き込まれた。35年9月読売新聞全国版が「土佐高が県内高校の政治闘争の中核校」と報じたのである。「革命病の高校生」と実態を報道した記事の中で、県内での活動の推進役が組織されており、そのなかで土佐高が中心的役割を担っていると。結局は当局のズサンな調査と読売の裏付けのない報道とわかった。(第50号)

50年目の母校 昨夏のホームカミングデーに初めて参加して50年振りに母校を訪ねた。お城かと思ふうばかりに簞ざる新校舎の立派さに驚く。そこには昔の面影は微塵も残っていなかった。
新校舎建設の後一昨年新校長を迎えた母校。奇しくも本稿に記述した約50年前と同様、新校舎建設と新校長登場とが重なる。伝統の現代的な復活に向けた新校長の活躍を期待したい。

「故郷土佐」を出て三十余年

ノンフィクション作家

門田隆将(53回)門脇護



【略歴】安芸市出身。中央大学法学部卒業後、新潮社に入社。週刊新潮編集部の記者、デスクを経て、2008年に独立。政治、歴史、司法、事件、スポーツなど幅広くジャンルで執筆中。2010年『この命、義に捧ぐ』（集英社）で第19回山本七平賞を受賞。主な著書に『裁判官が日本を滅ぼす』（講談社）『康子十九歳 戦渦の日記』（文藝春秋）『太平洋戦争最後の証言』第一部〜第三部（小学館）などがある。

私は、昭和53年に土佐高を卒業して上京したので、高知を出てから34年になる。東京の方が高知で暮らした期間より遙かに長くなったにもかかわらず、年を経るごとに故郷高知への思いは強くなる。

私は、仕事の関係上、北海道から沖縄まで、取材でほとんどの地域を訪れている。日本列島で、「この地方には行ったことがない」という地域がほとんどない。それだから尚更、高知が、いろんな面で「日本一」であることを感じている。私は、過疎に悩む高知こそ、あらゆる面で「日本一」であると思っている。高知県の人口は75万人である。東京で言えば、世田谷区より10万人以上少ない。高知県だけでなく、近い将来、四国全体の人口(393万人)は、横浜市の人口(370万人)に抜

かれる時が来るだろう。日本列島を形づくる四国という「地域」が、ひとつの「市」に抜かれるのだから、それは一極集中の日本を象徴する出来事になるだろう。しかし、私はそれだからこそ、高知は日本一であり、四国は素晴らしい、と思っている。

四国の人口密度は、一平方キロあたり209人である。一方の横浜市は、8450人だそう。単純に計算しても、横浜市の人口密度は、四国の40倍ということになる。

これは、四国の人間は、横浜市の人々より40倍の土地を使って生活していることを意味する。しかも、それは無味乾燥なコンクリートの地ではなく、海、山川の大自然に恵まれた本当の意味の大地なのである。これは、大都市に住む人間がいくら望もうとも、決して得られないもの

だ。今年、水質日本一になった仁淀川をNHKがドキュメンタリーで紹介していたが、一人の人間が形づけられるまでに使われる大自然を含む環境が、四国と大都会とはまったく異なるのである。

しかし、では、高知の人たちは、そのことを自覚し、誇りを持っているだろうか。

私は最近、高知の人たちが、都会にコンプレックスを持っているのではないかと、思うことがある。「高知は、もう過疎の地ですから」「県外の人には活気があっていいですね」「そんな言葉を帰高した時によく耳にする。私は、それを言うなら、「都会の人は、コンクリートジャングルの中で大変ですね」「夏は太陽の照り返しや空調機の熱で地獄でしょう。お気の毒です」

だと思う。そういう弱気な言葉を聞く度に、本来の土佐人はどうしたと、私は腹立たしくてならない。

端的な例として、高校野球を挙げてみよう。

いま高校野球のファンに高知と神奈川と野球はどっちが強い？と聞いてみたら、十人が十人、「神奈川が強い」と答えるだろう。

しかし、私が高知にいる頃は、まったく逆だった。高知代表と

神奈川代表が対戦することになったら、私は、「ああ、神奈川もクジ運が悪いなあ」と同情したものだ。私は、高知が神奈川に負けることなどあり得ないと思っていたからだ。事実、平成が始まるまでに、両県代表は、甲子園で6度の直接対決があったが、戦績は、高知県の6勝0敗である。

当然、当時の高知県は、甲子園の勝率が全国ナンバーワンを誇っていた。しかし、その後、さまざま面で自信を失っていった高知県は、高校野球でも戦績が低落の一途を辿った。ちなみに平成以降の高知代表対神奈川代表の直接対決は、高知の1勝5敗である。

なぜ、高知は自信を失ったのだろうか。なぜ、野球まで弱くなったのだろうか。

私は、高知県が自分たちの恵まれた「環境」と「歴史」を自覚できなくなっているからだと思う。高知には、都会にはない誇るべき美しい山河があり、そこでつくりあげられた『人間力』があるはずだ。高知をはじめ四国野球の原点は、その環境に支えられた「粘り」と「根性」、そして「したたかさ」である。

それは、四国の風土が育んだ独特の身体能力と野球センスによって支えられてきたものだったろう。だが今、高知の球児たちは科学トレーニングを積んだ都会の球児に圧倒されている。それは、土佐の自然の恵みを忘れ、創意工夫を怠り、全国一を誇った先人の努力や歴史を軽んじてきたツケにほかならない。

高知には、野球に限らず、今こそ「原点」を思い出して欲しいと思う。過疎も結構、高齢化も結構ではないか。むしろ、この温暖な気候と自然環境を前面に押し出して、全国に「最後の生活を牛存させてみませんか？」とアピールして、高知に全国の老人を呼び寄せればいいではないか。富裕な老人が集まり、高齢化対策の国費も投入され、それで雇用が促進されれば、これに越したことはない。

要は、発想の転換だ。都会にはないものを故郷土佐は、たくさん持っている。そのことを自覚して、反転攻勢に出ればいい。そしてなにより自信を取り戻すべきではないか。

さまざまな面で、高知が自分たちの原点を思い出した時、あの幕末・明治維新の時のように、再び日本をリードする時代が来るだろう。その時、母校土佐にも頑張っ欲しい。私は、そんなことを夢見る今日この頃である。



被写体の姿は変われども変わらぬ姿の東照宮



水戸から馳せ参じた医師のオートバイとともに

夜が更ける。
土佐に学んだ喜びに浸りつつ、
寄せ、同じ話で目が潤む。共に
を願っている。同じ笑いで肩を
（敬称略）
みんな元気でこの旅が続く事

「そりゃあ酒が足りるかや、あ？」
「おっと、永野のおんちゃんにも呑まいちゃらんあいかん」
「おいつ、三枝が来るぞお、見つかるぞ」「かまうか、来てみい」
「おつと、永野のおんちゃんにも呑まいちゃらんあいかん」
「そりゃあ酒が足りるかや、あ？」
（敬称略）
みんな元気でこの旅が続く事を願っている。同じ笑いで肩を寄せ、同じ話で目が潤む。共に土佐に学んだ喜びに浸りつつ、夜が更ける。

修学旅行 FOREVER

國澤 義明 (44回○ホーム)

「俺あ行ってないもんじゃあ」と。当時確かに野球部員は高校の修学旅行には参加していないいや、参加させてもらっていない。ならば彼を連れて、あの修学旅行地を訪ねてみようと思

我ら44回生の仲間が集まり飲むと、決まって修学旅行の時



真ん中筆者、向かって左：元甲子園球児、右：元トロンボーン少年

まずは我々の修学旅行のスケジュールを知りたい旨を母校にお願いしたところ、懐かしい方

「あいたあ誰やったかやあ？」と顔と名前が一致しない者も含めて15名が新宿駅に合した。卒業以来の御対面もあり、マドンナ達もすっかり様変わり。昭和42年10月31日夕刻、高知駅を二班に分かれて出発し、宇高連絡船から夜行列車は東へと。蘇ってきた。往時の旅館や食堂は、名前を変えたり廃業したりと時の流れを感じてしまう。日取りを決め、声を掛け合い、平成17年10月いよいよ38年振りの修学旅行へと出発した。

まま車中へ。箱根に向かうロマンスカーで、酒盛りが始まったのは当然の成り行きか。ロープウェイに乗り、遊覧船を乗り、皆の顔が昔に戻ってゆく。あの頃のまんまに戻ってゆく。互いにも隠さず湯に浸かり、先生方の見廻りも無い故、時の経つのも忘れて語り明かした。以来、行き先を変え何度か修学旅行を敢行している。

今年10月末に、初老の男女が浅草から日光に向かった。

怒川温泉で宴会だ。実は、飲酒
私を含め前科者たちは、ここは仕返しとばかりに盃をあおる。
「おいつ、三枝が来るぞお、見つかるぞ」「かまうか、来てみい」
「おつと、永野のおんちゃんにも呑まいちゃらんあいかん」
「そりゃあ酒が足りるかや、あ？」
（敬称略）
みんな元気でこの旅が続く事を願っている。同じ笑いで肩を寄せ、同じ話で目が潤む。共に土佐に学んだ喜びに浸りつつ、夜が更ける。

お悔やみ申し上げます

11回	上野誠朗	H24.2.28
17回	國則一夫	H23.12.31
26回	芝二美夫	H24.8.13
38回	谷川 忠	H24.2.27
39回	松井禧秀	H24.2.9

(以上関東支部管内、敬称略)

編集後記

◇編集長交代後の二回目を目を何とか発行することができました。ひとえに、編集委員一同の協力の賜物です。出版レターは、単行本のみを紹介しました。このページを長年担当しているヤングママ遠藤瑞枝さん(67回)に育児の中のオススメの一冊を紹介してもらいました。インタビュー記事、はちきん会の記事は、中立久美子さん(59回)、宮崎晶子さん(67回)が、紙面構成、見出しも含め担当。全体の紙面構成は工房長として勝田千砂さん(72回)が大奮闘。仕事に遊びに「筆山」と躍動する若い力に感謝。◇高知への熱い思いを綴る門田隆将(53回)門脇護)さんの新刊『尾根のかたに』父と息子の日航機墜落事故』はTVドラマ化され、この10月に放映されたばかりです。(N)

鍋島高明 (30回生)
●人はみな相場所 勝つための法則 <2012. 07>
 ¥1, 785 河出書房新社
 相場に賭ける気持ちは人類共通。樋口一葉をはじめ多くの有名人が相場に一攫千金の夢を見ていた。伝説の相場所、先哲に学ぶ勝利の方程式！上昇に転ずるための先人の知恵満載。
 (河出書房新社HPより転載)

尾池和夫 (34回生)
●四季の地球科学：日本列島の時空を歩く
 <2012. 07> ¥798 岩波書店
 地震と噴火は日本列島を生み出し、今も刻々とその相貌を変えている。気候変動が進行する現代に、四季の変化をもたらす天の運行、大地の動き、生態系の成立ちを考えてみよう。大地の生い立ちを現場で学ぶ、日本と世界のジオパークも紹介。日本列島が生まれ育った数億年の時空を歩き、各地に提供される恵みとともに愉しむ。
 (岩波書店HPより転載)

塩田潮 (40回生)
●国家の危機と首相の決断 <2012. 07> ¥903 角川マガジズ
 「国難」への対応が遅いのは理由がある。平時でも「リーダーシップがない」と言われる日本のトップが「国家の危機」が起こった際、どんな決断をしたのか。首相の資質、政府・官邸の危機対応を検証する。
 (角川書店HPより転載)

西村繁男 (40回生)
●あいうえおのえほん <2012. 10> ¥1, 365 童心社
●黒鉄ヒロシ (41回生)
●新・信長記 <2012. 10>
 ¥1, 260 PHP研究所
 織田信長と同時代を生きた人物たちまつわる新説・珍説をふんだんに盛り込み、戦国の世を立体的に描く。黒鉄歴画で信長時代を遊ぶ！
 (PHP研究所HPより転載)

●新・信長記 天 <2012. 09> ¥1, 260 PHP研究所
●森崎初男 (41回生)
●現代計量経済学
 <2012. 09> ¥3, 675 シーエーピー出版
●高山宏 (42回生)
●ノンセンスの領域 (高山宏セレクション『異貌の人文学』) <2012. 10>
 ¥6, 090 白水社
 キャロル作品の分析を通して、ノンセンスとはでたらめな転倒ではなく、理性により導かれた世界であることを解き、近代批判を展開する。新論考と新解説を追加した、待望の復刊
 (白水社HPより転載)

●山中令士 (47回生)
●山下町情緒を活かしたまちづくり <2012. 07>
 ¥1, 300 同友館出版
●門脇護 (53回生)
 (ペンネーム 門田隆将)
●尾根のかなたに 父と息子の日航機墜落事故
 <2012. 09> ¥700 小学館文庫
●死の淵を見た男 吉田

昌郎と福島第一原発の五〇〇日 <2012. 11>
 ¥1, 700 PHP研究所
●英保未来 (54回生)
 (ペンネーム 大森望)
●新編 SF 翻訳講座 <2012. 10> ¥893 河出文庫
 SFを中心に、翻訳商売三十年。その実践的な翻訳技術からSF業界の裏話までを軽妙に披露する名エッセイ集。岸本佐知子・豊崎由美との鼎談、恩田陸との対談ほかを新規に収録。
 (河出書房新社HPより転載)

●ブラックアウト (翻訳)
 <2012. 08> ¥2, 520 早川書房
 第二次大戦下のイギリスで、百貨店の売り子や米国人記者、郊外の屋敷のメイドに変装した史学生三人は、思いよらぬ事件にまきこまれてしまう！ヒューゴー賞・ネビュラ賞・ローカス賞の三賞を受賞した、人気作家ウィリアムの大作。
 (早川書房HPより転載)

●文学賞メッタ斬り！ファイナル <2012. 08>
 ¥1, 680 PARCO出版
 文学賞をエンタテインメントに仕立て上げた「文学賞メッタ斬り！」がついにファイナル！長年（一方的に）ライバル関係にあった石原選考委員の辞任を受けての「さらば、石原慎太郎！」。
●沈黙のエクリプス 上
 <2012. 07> ¥840 早川書房
 アカデミー賞監督ギレルモ・デル・トロ (『パンズ・ラビリンス』、『ブレイド

2』) が贈る究極のエンタテインメント (ストレン) 三部作、始動！ 着陸直後、沈黙したボーイング777。機内に突入したレスキュー隊員が見たものは？
 (早川書房HPより転載)

●沈黙のエクリプス 下
 <2012. 07> ¥840 早川書房
●森岡浩 (55回生)
●ルーツがわかる名字の事典 <2012. 10> ¥3, 360 大月書店
●なんでもわかる日本人の名字 <2012. 08> ¥756 朝日新聞出版
 姓氏研究の第一人者が「名字の種類とルーツ」など基本的な知識から、都道府県別の名字ランキングや「幽霊名字の謎」など、マニアックな情報までを分かりやすく解説。これ一冊で日本人の名字のすべてが分かる！
 (朝日新聞出版HPより転載)

●日本名門・名家大辞典 <2012. 09> ¥8, 925 東京堂出版
 江戸時代を中心に戦国時代から明治にかけて、日本の名門・名家と呼ばれる1, 000家を収録。
 (東京堂出版HPより転載)

●山本さんのルーツ
 <2012. 09> ¥840 ジェイ・アブ리케이션
●小林さんのルーツ
 <2012. 09> ¥840 ジェイ・アブ리케이션
●熊澤典良 (61回生)
●はじめての現代制御理論 (KS理工学専門書)
 <2012. 09> ¥2, 700 講談社

私の一冊 67回生 遠藤瑞枝 (出版レーダー担当)

あいうえおのえほん

文：内田麟太郎

絵：西村繁男



「あまがえる あめより あめのあまやどり」「むしばの むささびむりして むしかむ」といった調子で言葉を組み合わせ、ありえない世界を表現した文章。それに西村さんの絵がつくと、こっけいで、思わずくすくす笑ってしまうけど、まったく違和感なく読めてしまいます。「あ」から「ん」まで、奇想天外な場面が次々と登場して、読んでいても楽しいですし、絵を見ているだけでも楽しいです。

3歳の息子は言葉の面白さはあまり理解できてはいませんが、おかしい絵がページいっぱいにあふれているので読むたびに新しい発見があるようです。カニの絵を見て「カニさんちよきちよき」と言いながらチョコキの指で私の髪を切る真似をしたり、「おばけ怖いね〜」と怖そうな声でいながらも必ずおばけの絵のページをめくりたがります。



私は2009年11月に長男を出産し、子供が1歳半の時に職場である国立大学の図書館に復帰しました。保育園にお迎えに行き、夕食を作り、お風呂に入って洗濯物を干して9時半に寝かしつけと、仕事以上に焦らされている感はありません。何をすることも時間がかかってしまいます。服を着るにも、1枚着せるごとに追いかけている状態。育児書に従い「早くしなさい」とはなるべく言わないようにしていますが、0回にすることは到底無理です。そう聞き直っていたら最近では子供に「早くして！」と言われる始末。

子供と穏やかに時間を過ごすために勤務時間を少なくしてもらってはいますが、その分仕事は山積みになり、それを片付けるために仕事に熱中すると子供との時間が少なくなり子供は不機嫌になることもあり、バランスをとることの難しさを感じています。仕事・家事・育児、もっといいやり方があるのではと模索する毎日です。